

「釧路湿原自然再生協議会」

第 7 回 湿原再生小委員会

資 料

平成 2 3 年 1 月 1 9 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 7 回 「湿原再生小委員会」 －

日時：平成 23 年 1 月 19 日（水） 13：30～15：30

場所：北海道新聞釧路支社 5 階 道新ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. 第 5 期湿原再生小委員会の委員長及び委員長代理の選出
3. 議 事
 - 1) 幌呂地区現地植生回復試験について
 - 2) 幌呂地区湿原再生について
 - 3) 5 年目の施策の振り返りについて
4. その他
5. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
湿原再生小委員会 委員名簿

計：38名

■個人(16名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
2	金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
4	神田 房行	北海道教育大学 教授
5	木村 勲	
6	清水 信彦	
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員 (環境マシリテーター)
※9	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
10	辻井 達一	財団法人 北海道環境財団 理事長
11	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
12	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
13	橋本 正雄	日本野鳥の会釧路支部 副支部長
14	松本 文雄	
15	矢部 和夫	札幌市立大学 教授
16	山田 浩之	北海道大学大学院 農学研究院 農林環境情報学研究室 助教

■団体(15名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 加藤 正道
2	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
※3	財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
※4	財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 有田 茂生
5	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
※6	鶴居村タンチョウ愛護会	会長 松井 孝志
7	鶴居排水路維持管理組合	組合長 瀬川 勝巳
8	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
9	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
10	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
11	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事表 百瀬 邦和
12	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
13	北海道標茶高等学校	校長 西田 丈夫
14	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
15	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 安田 修
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 野口 明史
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

※第5期(前期)所属変更

湿原再生小委員会における幌呂地区に関する協議事項

	議事	幌呂地区に関する協議事項
第1回 H16. 2. 17	<ol style="list-style-type: none"> 1) 全体構想と小委員会との関わりについて 2) これまでの調査・検討経緯について <ol style="list-style-type: none"> (1) 広里地区湿原再生について (2) 幌呂川地区湿原再生について (3) 雪裡樋門湛水試験について 3) 今後の調査・検討方針について 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小委員会では、全体構想のうち、「湿原の再生」「湿原植生の制御」「野生生物の生息・生育環境の保全」について、実施計画に関する協議・検討を行う。 ■ 当面、湿原再生小委員会を対象とする事業区域は、広里地区、幌呂川地区、安原地区とする。 ■ 幌呂川地区は、過去に改変され、現在は利用されていない土地という点に着目して、湿原再生区域に設定した。 ■ 幌呂地区の湿原再生目標 <ul style="list-style-type: none"> ・台地から湿原までの間の湿原移行帯からなる湿原環境の再現 ・高層湿原や赤沼、池塘等、周辺湿原を含む地下水、表流水など良好な水環境の回復
第2回 H16. 6. 25	<ol style="list-style-type: none"> 1) 平成15年度の調査・検討成果について 2) 平成16年度以降の調査・検討方針について 3) 全体構想との関わりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地形、地下水位、動植物に関する現地調査結果を踏まえ、現状の条件別にエリア区分を行い、各エリアの具体的な目標を設定した。
第3回 H17. 5. 11	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小委員長選出について 2) H16年度調査検討結果とH17年度調査検討計画について <ul style="list-style-type: none"> ・釧路湿原の面積について ・釧路湿原全域動植物調査の概要 ・広里地区 ・幌呂川地区 ・関連する農業整備事業について ・雪裡樋門地区 	<ul style="list-style-type: none"> ■ A～Dエリアの湿原再生の目標（案）を設定した。また、Bエリアで湿原と丘陵地の移行帯としての重要性を把握するため現地調査を行った。
第4回 H20. 3. 3	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幌呂地区の変遷と現状 2) 幌呂地区で生じた現象と課題 3) 幌呂地区の湿原再生目標の設定 4) 広里地区の湿原再生 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「幌呂川の切り替えによる冠水頻度の減少」「排水路整備による地下水位の低下」によって、「湿原面積の減少(湿原→農地)」「湿原植生の変容(ヨシ→ハンノキ林)」「湿原景観の喪失」という課題が生じた。 ■ 幌呂地区の湿原再生の考え方 隣接地で営まれている農業等の社会経済活動に配慮しつつ、幌呂地区湿原再生区域の『ワンランク上』の湿原を再生の目標像として取り組んでいく。 ■ 湿原再生の手法 <ul style="list-style-type: none"> ・リファレンスサイトを設定し、リファレンスサイトの植生と物理条件を把握する。 ・リファレンスサイトの植生と物理条件を踏まえ、湿原再生を図る上で満足すべき物理条件を設定する。 ・数値目標を達成するための実施計画を作成し、湿原再生を図る取組みを実施する。 ■ 幌呂地区の湿原再生事業の目標を①湿原面積の回復、②湿原植生の回復、③湿原景観の復元とした。 ■ A～Dエリア毎の湿原再生の目標を設定した。（植生、冠水頻度、地下水位） ■ 農地防災事業と調整を図りながら検討していくこととし、地域の産業活動と湿原再生の両立を図ることとした。
第5回 H21. 3. 18	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幌呂地区の湿原再生目標の概要 2) 幌呂地区 平成20年度の調査結果 3) 平成21年度の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成20年度は、幌呂地区の地区毎の地下水位の把握、植生の現状把握、ハンノキ生長量の比較を実施した。 ■ 現地試験計画について協議した。表土層の掘り下げにより地表面を地下水面に近づけ、地下水面の深度毎に植生変化状況の観測・観察を行う。
第6回 H22. 9. 2	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幌呂地区湿原再生について 2) 広里地区湿原再生について 3) 釧路湿原の面積について 4) 5年目の施策の点検について 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現地植生回復試験の報告が行われ、表土層の掘り下げによって、B区域を再現する試験区はB区域にみられる植生に遷移していくことが予想された。 ■ 試験結果を踏まえ表土層の掘り下げを行う場合の事業内容を整理した。 ■ 全体構想策定後5年経過し、湿原再生に関する施策の点検方法として、振り返り点検シートによる検討が提案された。

第6回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
幌呂地区湿原再生について	<ul style="list-style-type: none"> 農地と湿原の境界部分に、高茎湿生草原のような群落があることは自然再生を行う上で十分な意味を持つと思う。誤解を招かないような表現を用いることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地と湿原の境界部分における湿原植生の再生の意味を十分認識し、的確に表現する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 「冠水頻度の減少」が幌呂地区における変化の原因の一つとして挙げられているが、これに対して何も言及されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の検討及び議論の経緯を整理する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現地植生回復試験の結果については、広里地区の掘り下げ試験の結果も参考にした方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果は、広里地区の掘り下げ試験の結果と合わせて評価する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現地植生回復試験の3つの試験区が連続した状態では、浅い試験区から深い試験区へ表流水が流れ込むことになる。表流水のことが考慮されていないのであれば、今後考慮された方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験区の設定については、第5回小委員会で了解を得ているが、今後の植生回復試験の結果を踏まえ、必要に応じて検討を行っていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 試験区全体のことを考える場合は、地下水位を観測している地点だけでなく、それ以外の場所についても考えていく必要がある。 排水路の水位を上げることにより地下水位を上げる方法は検討していないのか。 A区域の下流側（南側）は、農地から離れており、土地も傾斜していると考えられることから、農地への影響をシミュレーションにより予測してはどうか。 湿原再生区域のみで考えるのではなく、上流側の湿地や水の流れとの連携を図った対策も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地盤掘り下げを行う場合は、一律に掘削深度を決めるのではなく、場所により掘削深度を変えていくことを検討する。 排水路の埋め戻しと農地への影響について予測し検討を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 湿原再生小委員会の中では、湿原生態系の再生についても目標を掲げている。今回の小委員会では、泥炭の掘り下げについても議論されたが、泥炭も湿原生態系の一部だという認識を持つことも必要と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 掘り下げなどの作業対象に生態系の一部が含まれるような作業については、生態系の再生の視点から検討しつつ進めていく。 	

第7回 湿原再生小委員会

資料目次

	頁
1. 幌呂地区現地植生回復試験について……………	1
1-1. 湿原再生事業の目標……………	2
1-2. 植生回復試験地の概要……………	4
1-3. 植生回復試験結果……………	6
1-4. 広里地区の知見の活用……………	10
2. 幌呂地区湿原再生について……………	11
2-1. 幌呂地区の現状……………	12
2-2. 幌呂地区湿原再生の必要性……………	14
2-3. 湿原再生の考え方……………	15
2-4. 湿原再生により期待される効果……………	17
2-5. 全体構想の目標との整合性……………	18
3. 5年目の施策の振り返りについて……………	19
3-1. 5年目の施策の振り返りについて……………	20